



平成22年総代会研修旅行で富士浅間神社を参拝(2月21日)

新年のご挨拶

宮司 林 伊佐雄

新年明けましておめでとうござい
ます。
新春にあたり氏子崇敬会の皆様方
のご多幸とご健勝をお祈り申し上
げます。
天皇・皇后両陛下におかれまして
は、おすこやかに新春をお迎えにな
られましたこと、慶賀の至りに存じ
上げます。
また神宮におかれましては、平成
二十五年の第六十二回の伊勢神宮の
式年遷宮の齋行にむけて、諸事順調
に準備が執り進められております。
今後も諸行事が予定されていきます
が、当社といたしましても参宮団を
結成し、それらへの参加も考えてお
ります。二十年に一度の国家の重儀
である御遷宮の完遂を何よりも祈念
するところでございます。
さて、当神明社は、平成十八年か

富の神明さま

発行所
三富富岡総鎮守
神明社
社報第6号
〒359-0002
所沢市中富1507
社務所電話
04-2943-1709
宮司宅電話
049-259-2228

★参道等修復工事行われる

平成二十二年秋、ギノウス(株)様のご寄進により、参道のバリアフリー化、手水舎、拝殿周辺の整備、御鏡、御簾も一新していただきました。
兼ねてから、当社に御足の不自由な方や障がい者の方々も参拝に來られており、参道等のバリアフリー化が大きな課題になっていました。この度のギノウス(株)様のご厚意によって境内が一新されました。氏子の皆様を代表して心から感謝申し上げますと共に、多くの方々に産土神社に足を運んでい



参道周辺をバリアフリー化



社務所玄関、お札頒布所前



手水舎周辺も整備

ただけたらと願うところでございます。これからも一人でも多くの方に参拝いただき、心の拠り所となるような神社になるべく奉仕させていただきます。



修復された天水桶



拝殿の御簾等も一新



多聞院への参道も広く

ら三ヶ年に亘り神社本庁より埼玉県で「第一期神社振興対策教化モデル神社」の指定を受けました。一昨年、無事指定期間が終了し、新たな展開を考えていたところ、昨秋、ご寄進によって参道等の修繕を行うことができました。一步一步、当社が多くの皆様方の崇敬心によって整備され、社頭が繁栄していくことは、感謝の極みでございます。
鎌倉時代の『御成敗式目』に「神は人の敬いによりて威を増し、人は神の徳によりて運を添う」とあります。
人々が崇敬する気持ちが大きければ大きいほど、神様はその威徳を増していき、そして、人々は威を増した神様の徳によって運が開けてくるという意味です。
威を増していく神明社の神様の恩頼(みたまのふゆ)により、氏子崇敬者の皆様にとって、今年が幸多き年になりますことを心よりお祈り申し上げます。なお、私宮司は、新年より公職に就くため、禰宜が中心の神社運営になろうかと思っております。これまで以上に「ご指導」「ご鞭撻」を宜しくお願い申し上げます。

月の原日記

「所沢の魅力」というビデオ制作のため、10月に神明社にも神様の取材がありました。制作は日大芸術学部放送学科の皆さんです。授業の一環で、先生の指導のもと撮影が行われ、協力させていただきました。皆さん一年生です。未来の黒澤明の誕生を願っています。

いも神様も、少しずつですが、多くの方々に周知され始めたようです。毎年、新年の焼き芋感謝祭を楽しみにしていますという声も聞かれます。今年も、いも神様に奉納された焼き芋を食べて、無病息災、大願成就なされますことをお祈り申し上げます。



日大芸術学部の皆さん



総代会会長
阿部 征一

新年の「挨拶

新年明けましておめでとうございます。氏子並びに崇敬会の皆様には、

健やかに新しい年をお迎えいただいたものとお慶び申し上げます。

さて、当神明社は、平成十八年から三ヶ年に亘り神社本庁より埼玉県で「第一期神社振興対策教化モデル神社」の指定を受けました。お陰様をもちまして、これを機に年々社頭が繁栄して参っております。さらに昨秋には、ご寄進によって参道等の修繕を行うことができました。心から感謝を申し上げます。

また、神宮では式年遷宮に向けて諸事準備が進められているようです。私達神社人の使命として、日本の文化、伝統の中心でもあります皇室を、しっかりとお守りしていかなければいけないと強く感じているところでございます。

本年も、社頭発展のために尽力させていただき所存でございますので、皆様方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

日露戦跡を訪ねて

「まことに小さな国が、開花期をむかえようとしている。・・・この物語の主人公は、あるいはこの時代の小さな日本ということになるかもしれないが・・・」

司馬遼太郎「坂の上の雲」の冒頭8巻に及ぶ明治の大叙事詩はこう始まります。そして、

「このながい物語は、その日本史上類のない幸福な楽家たちの物語である。楽家たちは、そのよくな時代人としての体質で、前をのみ見つめながらあるく。のぼってゆく坂の上の青い天にもしーだの白い雲がかがやいていとすれば、そののみをみつめて坂をのぼってゆくであろう。」と。

NKKKスペシャルドラマ「坂の上の雲」が一昨年から始まりました。折しも昨年六月、神社庁入間支部所沢分会主催で日露戦争の戦跡を訪ねる慰霊の研修旅行が催行され、旅順に行ってきました。

ほぼ、百年前に日本が近代国家を目指し、国の命運をかけて戦った日露戦争。熾烈な戦いをし

平成二十二年 総代会研修旅行記
『富士浅間神社並びに

武田神社参拝と武田信玄生誕の地と武田家ゆかりの温泉を訪ねて』

所沢新田氏子総代 新井 公一

恒例の神明社氏子総代会の研修旅行が、今年も二月二十一・二十二に泊二日の行程で、総数十五名の参加者で行われました。

今年の研修地は、山梨県富士山の麓、富士浅間神社そして武田神社並びに武田信玄ゆかりの温泉を訪ねました。

当日、宮司宅を八時に出発した我々は、関越道、圏央道、中央道を経て、途中、山梨県リニア見学センターを見学しました。未来の乗物を見学して、科学技術の進歩に深い感銘を受けました。そして、当地を出発して十一時、富士山の麓の北口本宮富士浅間神社に到達し、雪のある参道を進み、参拝いたしました。

その後、車は、忍野八海・仁泉に到着し、ここで昼食です。この地域は富士山の清冽な湧き水ので

る里です。その里で美味しい食事

と、お酒に舌鼓を打ち全員が盛り上がり、楽しい昼食となりました。

昼食後、午後は「西湖いやしの里」を見学し、続いて、今夜の泊まる宿、積翠寺温泉・古湯坊坐忘庵に到着いたしました。この宿は、山あい建つ一軒宿で、ここの湯は、信玄公の産湯として使われたという歴史ある武田家ゆかりの温泉です。この温泉に浸り、みんな懇談をして楽しい一夜を過ごすことができました。

翌日は、旅館を九時に出発して武田神社に詣で参拝いたしました。参拝の後、神社内にある武田家宝物殿を見学し、武田家興亡の歴史を偲ぶことができました。そして、中央道、交付昭和ICから小淵沢ICを経てサントリー白州蒸留所を見学し、次ぎに向かったのは、八ヶ岳の裾野にある八ヶ岳チーズケーキ工房です。そこで昼食となりました。みんな和気藹々でお昼を楽しくいただきました。そして帰途についたのです。

帰りの中央道の車窓から八ヶ岳連峰そして南アルプス連峰の素晴らしい眺めを堪能し、全員無事に帰着いたしました。

は、この言葉を通して、この山で死んだ無数の霊・・・乃木自身の次男保典をふくめて・・・に鎮魂の想いをこめて呼びかけています。

明治から昭和を経て平成の世に時は移りました。日本という国は坂をのぼりつめて豊かになり、得るものは得ることができたけれど、何か大切なものを坂の下に置き忘れてきてしまったように思えます。

今の日本、政権交代は行われませんが、普天間問題、政治とカネ、尖閣諸島海域での中国漁船の衝突事件、ロシア大統領の北方領土、国後視察など、外交や安全保障の面では失政が続いています。

日本海海戦でバルチック艦隊を破った東郷平八郎元帥の言葉に
天は必ず正義に与し
神は必ず至誠に感ず
とあります。

今の日本に失われてしまったもの・・・それは、「天」や「神」の下で生かされているという宗教観の欠如、さらには正義や至誠をもつて真摯に生きる倫理意識の欠如ではないでしょうか。日露戦争は何であったか。今一度振り返る大事な時ではないかと考えます。

(文・林伊佐雄)



爾靈山記念碑



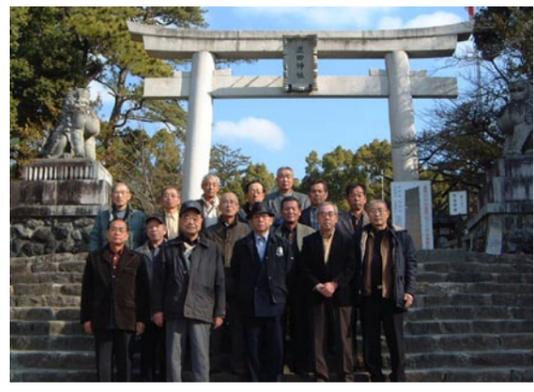
203高地と並ぶ激戦地、東鷄冠山での銃弾跡



203高地から旅順港を望む



山梨県リニア見学センターで



武田神社にて

我々の伝統ある神明社氏子総代会研修旅行は、名誉宮司をはじめ地域の大家の氏子総代の皆様と神社を参拝し、そして一堂に会しての懇親は懐かしい思い出となって、終世忘れることはできません。